

環境 NEWS (第38回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

近年、ISO9000・ISO14000・脱鉛(なまり)・脱 CO2(二酸化炭素)・温暖化防止・SDGsなどなど、欧州起源の様々な規格や規制がありますよね。日本企業は、これらの対策で振り回されてばかりいるように感じます。

しかし、根本的な考え方は、ある意味間違いでは無いようです。本質を理解すると、これらは人類にとってはとても参考になることだと思います。(一番大きな問題は“戦争”だとは思いますが...)

ここで、改めてSDGs目標 14「海の豊かさを守ろう」について考えてみましょう。

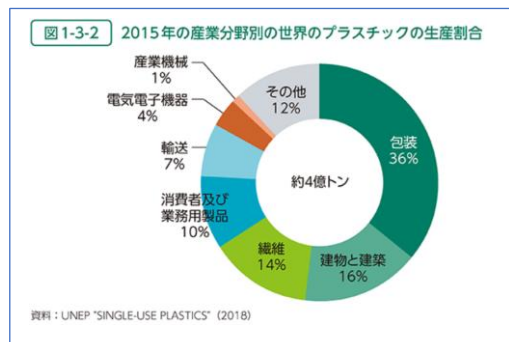
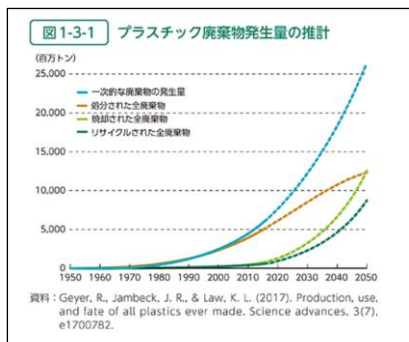
海洋プラスチックごみを減らすには、“包装”を何とかしなければならないことがわかります。たくさん生産(消費)していても、皆さんがむやみに捨てなければ問題は無いのですが、なかなかそうはならないのですね。であれば、やはり生産量を減らす方向にもっていくしかないと思います。

昔に戻り、鍋を抱えて買い物をする必要があるのかも...。今般の石油危機を契機に、改めて動き出す時が来たのではないのでしょうか。

【海洋プラスチックごみ問題について】

プラスチックの生産量は世界的に増大しており、1950年以降生産されたプラスチックは83億トンを超えています。また、生産の増大に伴い廃棄量も増えており、63億トンがごみとして廃棄されたと言われています。現状のペースでは、2050年までに250億トンのプラスチック廃棄物が発生し、120億トン以上のプラスチックが埋立・自然投棄されると予測されています(図1-3-1)。

こうしたプラスチックの製造用途については、2018年6月に発表されたUNEPの報告書によれば、2015年における世界のプラスチック生産量を産業セクター別に見ると、ワンウェイのものを含む容器包装セクターのプラスチック生産量が最も多いとされており、全体の36%を占めているとされています(図1-3-2)。



近年はマイクロプラスチック(一般に5mm以下の微細なプラスチック類をいう。)による海洋生態系への影響も懸念されています。マイクロプラスチックは、プラスチックごみが波や紫外線等の影響により小さくなることにより、あるいは洗顔料や歯磨き粉にスクラブ剤として使われてきたプラスチックの粒子や合成繊維の衣料の洗濯等によっても発生します。北極や南極においてもマイクロプラスチックが観測されたとの報告もあり、地球規模の海洋汚染となっています(図1-3-4)。

